

平成 2 3 年度

第 2 / 3 回

(集団研修)

自然・文化資源の持続可能な利用
(エコツーリズム)

実施要領

平成 2 3 年 8 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

付属資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 カリキュラム（案）

付表－3 平成 23 年度日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：（集団研修）自然・文化資源の持続可能な利用（エコツーリズム）

英文：Group Training Program on “Eco-Tourism for Sustainable Use of Natural and Cultural Resources ”

(2) 受入期間

平成 23 年 8 月 22 日（月）～10 月 5 日（水）

(3) 技術研修期間

平成 23 年 8 月 29 日（月）～10 月 4 日（火）

(4) 定員、割当国

定 員：7 名

割当国：アルゼンチン、ケニア、スリランカ、タイ、ウガンダ、バヌアツ、ベトナム、（下線は受入国）

(5) 類型 人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

2. 案件の背景・目的

国連は、観光に持続可能な開発の視点をより多くの人々に取り入れてもらうため、2002 年を「国際エコツーリズム年」と定めた。エコツーリズムとは地域の自然や伝統文化を体験し理解を深めながら、そのよりよい保全と地域振興に貢献することを目指している。

世界観光機構（WTO）では、持続可能な観光として、保護する観光の対象を自然資源だけでなく歴史遺跡や伝統・文化など有形無形な資源にまで広げるとともに、貴重な観光資源を観光客がすり減らすことなく、次世代にも伝えていくということと定義付けている。多くの途上国においては、観光産業は大事な外貨獲得の手段となっているとともに、地域住民の雇用機会創出と地域経済活性化という点で地域開発の面においても重視されており、観光資源の開発と保全の両立は切実な課題となっている。同時に、環境保全は経済・社会発展において極めて重要な課題となっており、緊急の課題である。

本コースでは、地域の自然・文化資源の保全とその持続的利用を可能にするツールとして、地域住民の参画によるエコツーリズムを導入するための施策を学ぶことを目的としている。

3. 案件目標

エコツーリズムの導入を予定している地域で、地元住民を巻き込んだ持続的地域開発のツールとしてのエコツーリズム手法の導入・普及計画案が、所属部署において作成される。

4. 単元目標

- (1) 自然、文化資源の保全と持続的利用にかかわる「エコツーリズム」の理念、施策について理解し、説明できる。
- (2) 環境保全に配慮した「エコツーリズム」推進のためのプランについて議論できる。
- (3) 地域住民や関係者とのネットワーク構築のための手法を説明できる
- (4) エコツーリズム導入手法に関する行動計画（案）の作成ができる。

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修員の担当地域・保護区での課題分析や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（４）にかかる行動計画（案）を作成し、コース終盤に中間報告を発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書（Final Report）」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた行動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ検討され、最終的な行動計画をまとめ、帰国後３ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 環境保全のためのエコツーリズムを企画・推進する立場にある者（中堅行政職等）
- イ. 当該分野で2年以上の経験がある者
- ウ. フィールド研修のできる十分な体力と精神力がある健康な者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL IBT 72 点（CBT 200 点／PBT 533 点）以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を、釧路国際ウェットランドセンター（KIWC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。また、技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（コース目的、案件目標、研修期間等）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) KIWC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) JICE

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件到達目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、KIWC 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明のほか、日常生活を送る上での諸注意等を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・経済・教育・行政などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程		内 容
8 月 23 日 (火)		ブリーフィング、JICA ブリーフィング①
8 月 24 日 (水)	午前	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」
	午後	生活オリエンテーションバスツアー
8 月 25 日 (木)		ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
	夜間	日本語講習
8 月 26 日 (金)	午前	JICA ブリーフィング②
	午後	フライトミーティング
	夜間	日本語講習
8 月 27 日 (土)	終日	日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター (OBIC)

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

スーパーホテル釧路駅前

所在地：〒085-0018 釧路市末広町 1 4 丁目 1-2

Tel (0154) 25-9000 Fax (0154) 25-9001

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本案件に地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

研修員関連情報

■研修員情報(英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① MELÉ BRUSOTTI, Maria Monserrat ② D-11-03467 ③ 26 ④ 女 ⑤ アルゼンチン	① フワイ(Jujuy)州観光文化事務局 地方コミュニティ観光部 コーディネーター ② 1年5ヶ月 ③ ベルグラノ大学・戦略的経営学・08年卒 ブラスパスカル大学・観光学学位・08年卒 ④ ABBB ⑤ (記入なし)	① ・州内の自然・文化資源の保全のための戦略開発に参加。その活動にとって重要な役割を果たす事業者および先住民コミュニティとともに調査、対話を行う。 ・国内外から観光地として州へ招致するための戦略や調整を、州の各当局および民間企業と企画する。観光地フワイの宣伝のために、イベントや展示会、会議などを開催する。 ・特に人間、自然、文化の権利に重点を置いて、周辺環境の持続性と調和を確保しながら、資源の適切な運用と開発のための、プロジェクトと企画を立ち上げる。 ・個別の状況または地域での調査で得られた需要に応じて、担当地域内での研修を構成、実行する。 ・活動へ向けての州法立法のための調査および立案。 ② ・観光文化事務局:社会的な良心に基づく公共機関であり、住民の収益のために州観光の持続性のある開発を促進する。 ・地方コミュニティ観光部:地域に根付いた農村部の観光を、住民および先住民のためにも質の高い有益な事業として促進する。フワイ州の自然・文化資源を評価する地域の開発への原動力となる。	・州内にある資源を有効活用を計画、開拓するにあたって必要な知識が、この研修プログラムに期待することである。この分野における日本の運用経験を理解することは、そのために不可欠である。 ・重要な側面は、仕事での知識や経験、方法論などを、他国からの専門家と分かち合い、自らの職務能力だけではなく、人間としても成長することである。 ・帰国後はこの経験を同僚たちと共有し、チーム全体で同じ目標を描くことができるようにしたい。 ・特にこの研修経験で関心のあることは、私の州で出ているニーズや、資源保護の状態、およびそれにどう対処すべきかの知識の不足がもとなっている。最近では特にこれらの問題に関して意識が高くなり、取り組んできた。そのため、州内に調和のとれた環境を確保するために、計画のために自分が習ってきたことを適用することや、開発に関する経験や個人の経験のやり取りをすることと、そして将来の世代が、自然と文化資源について学んでいくことには、確信を持っている。
2	① NTHUKU, Joyce Syokau ② D-11-03442 ③ 41 ④ 女 ⑤ ケニア	① ケニア森林局 ナイロビ保護管理局 地区マネジャー代理 ② 1年10ヶ月 ③ モイ大学・林学専攻・理学士・07年卒 ④ AAAA ⑤ (なし)	① ・カルラ森林とナイロビを含めたエコツーリズムの開発 ・都市森林の促進 ・意識啓発と地域住民の研修 ・造林業者の育成 ・天然林の保護と管理 ② 環境の安定と社会経済発展のために、森林の保全と持続性のある管理を強化すること。	1. エコツーリズムと文化発展に関する能力向上 2. 情報共有 3. 他の国々での経験(情報) 4. 科学的知識 ・特に関心があるのは、自国がもっと外貨を稼ぐことができるようなエコツーリズムの開発と文化的価値の増進。

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
3	① WIJAYAKOON MUDIYANSELAGE, Hemantha N. B. W. ② D-11-03840 ③ 35 ④ 男 ⑤ スリランカ (フルネーム) WIJAYAKOON MUDIYANSELAGE, Hemantha Nanditha Bandara Wijayakoon	① スリランカ観光開発局(SLTDA) 観光企画 開発部 次長 ② 2年3ヶ月 ③ 技術工学専門機関・土木工学専攻・国認定 技術科学学位・00 ④ AAAA ⑤ (記入なし)	① <観光商品の開発> 1) パッキングダ国営休暇リゾート開発の取り扱い(マスタープラン・開発ガイドライン・EIA(環境影響評価)作成、プロジェクト評価) 2) 上記リゾートの土木建築関連業務(各施設の建設、現場監督、経過審査、変更注文の準備など) 3) ヴァカライ国営休暇リゾート開発の取り扱い(土地収用、土地調査、マスタープラン・EIA作成、プロジェクト評価) 4) ヤラ・エコフレンドリー・観光開発プロジェクト関連業務(マスタープラン・開発ガイドライン・EIA作成、プロジェクト評価) 5) 民間資金による観光プロジェクト関連業務(プロジェクト案評価、設計審査、現地調査、出資者の審査支援、EIA/SEAにて出資者を代理) 6) ランド・バンク(用地銀行)・チームの一人(特に戦争終結後の高額出資者誘致のための観光商品開発。例:ヴァカライ、ブルムダイ、シラワトゥレイなど) <その他の業務> 1) SLTDA本部オフィスの改装工事業務 2) カルクダ・フィッシング・ヴィレッジ開発のための外国出資(World Bank)事業 3) カタラガマ国営休暇リゾートの改装工事 ② ・スリランカ観光開発局(SLTDA)は、スリランカの観光法の条項(05年)に基づく、同国の観光に関する最高機関である。セイロン観光局、スリランカ観光局などの呼称で知られるこの組織は、スリランカがアジアで最大の人気観光地となるべく全力を尽くし、世界的にも際立つ、多様かつ個性的で、上質な観光サービス提供を育成できるよう努めている。 ・スリランカ観光局のビジョンとは、スリランカをアジアの中でも美しいビーチと温かくて気さくな国民に出会え、強い自然、文化、冒険体験ができる、最も貴重で緑にあふれた島に変革することである。国民の利益のためにも、アジア観光の象徴的な存在となり、そのことが関係者に最大の外貨収入源としても位置づけられるよう、引き立てることである。 ・SLTDAは、その産品を創造的に活用し、資源が能率的かつ効果的に観光業界に貢献するよう、確実に最適化している。その活動は、それぞれの観光客のニーズを見極めたうえでの個性的な製品やサービスを提供することであり、「観光開発ガイドライン」を制作し、新しい製品やサービスのための法的・事務的支援も担っている。	・ヤラのようなエコフレンドリー(環境にやさしい)自然体験観光開発の際は、慎重に計画をすることが必要である。さもなければ、ようなスリランカにとって貴重な財産である自然保護区の野生生物や生物多様性を損傷してしまうからである。 ・ヤラやパティカロのような文化資源のエコ観光開発には、新しい自然資源や文化資源の保全方法を考慮しなければならない。この研修プログラムを通して、エコフレンドリー観光の持続的活用のための様々な方法に関する知識を習得し、スリランカの観光にも役立てたい。 ・国外からの高級観光客の誘致のために投資をしたい民間業界を支援するためにも、エコフレンドリー観光(自然および文化)の計画、出資、開発、宣伝、マーケティング、運営やホームステイ事業に関する新しい知識と戦略を取り入れることが必要である。 ・高級エコリゾート商品開発のための土地の選択については、別の方法で計画、運営、宣伝、マーケティングを行う必要がある。ここにおいても同様に新しい計画開発方法があるかも興味がある。

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
4	① PATHOMWAREE, Sitisak ② D-11-03338 ③ 44 ④ 男 ⑤ タイ	① タイ王国持続的観光特別地域開発管理機構(DASTA・公共機関)指定地域計画戦略部門 指定地域計画課長 ② 5ヶ月 ③ チュラロンコン大学・都市・地方開発修士・92年卒 ④ AAAA ⑤ カール・デュイスベルク・ゲゼルシャフト(ドイツ)・都市産業環境マネジメント(00年)	① 1) 持続可能な観光開発指定地域選択のための技術的プロセス 2) 内閣決議により、持続可能な観光指定地域の宣言 3) 持続可能な観光指定地域のマスタープランと経営プランの作成 ② 2003年のタイ政府による政令により、持続的観光特別地域開発管理機構(DASTA)が創設され、持続可能な観光という目標を目指して、統合的な管理システムを強化した総合的開発手法に取り掛かった。観光経営手法により、自然資源、地域文化や観光名所などの保全に沿って、息の長い貴重な富として指定された地域の統合的、持続的な開発が責務である。これにより、観光地同士の競争や、地域住民からの協力も促進され、自然保護と開発のバランスの取れたエコフレンドリーなプロジェクトに対する投資も招致できるであろう。	・持続的な観光開発のために個人個人や組織スタッフの能力を伸ばすために役立つ知識や内容を知ること。 ・それぞれの観光地の魅力を増大するための情報管理の開発 特に関心があるのは、以下の通りである。 ・指定地域には、関係者の目的に即した、マスタープランの作成が欠かせない。あらゆる観光産業の側面に全ての住民の参加、地域リーダーの資源管理と環境教育に関する能力の向上などが含まれる。観光も他の産業も依存している資源を悪化させることなく、質の高い観光地を開発することは可能である。この手法により、持続可能な開発と自然保護のために、全ての(関係者の)利益に向けての異業種協力の場としての観光業の機能が果たせる。
5	① SSEKITOLEKO, Solomon ② D-11-03098 ③ 26 ④ 男 ⑤ ウガンダ	① ウガンダ観光局(マーケティング部)調査ユニット 観光(調査)担当官 ② 3年2ヶ月 ③ マケレレ大学・観光学学士・07年卒 ④ AAAA ⑤ (記入なし)	① ・環境保全の促進(規制と意識啓発) ・環境危機管理 ・観光関連の調査の実行 ・現地調査スタッフおよび環境保護担当者の育成と監督 ② <観光局> ウガンダを地域からも外国からも好ましい観光地として促進、宣伝をすること <調査ユニット> 自然保護、現地調査、適時の情報公開などを通じて、適切な観光業の運営と危機管理を可能とすること	・エコツーリズムの経営手法、特に自然保護と振興について学びたい。 ・自らの職務の責任でもあるため、環境保護のためのより多くのスキルや、自然、文化資源の持続的活用法について大変関心がある。

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
6	① SAMUEL, Janet ② D-11-03312 ③ 34 ④ 女 ⑤ バヌアツ	① バヌアツ政府観光局 外輪諸島観光調整部 州観光開発主任担当官 ② (記入なし) ③ ワイカト大学・観光学専攻・社会科学学士・ 03年卒 ④ ABBB ⑤ JICA東京センター・青年研修(09年)	① 州観光開発主任担当官の職務として 1. 各州の観光投資と開発を促進し、可能にするための、州 政策と法体系の構築 2. 州観光計画の実行 3. 国営クルーズ船計画の実行 4. バヌアツ島バンガロー&観光協会の創立と運営 5. 市内・州内観光計画のための資源の動員の手配 6. 観光投資主任担当官を支援して、他の政府機関、NGO、 民間組織と協力して州内の観光投資を促進する。 ② <観光局> 民間との連携により、メラネシア系バヌアツ人(人口の98%)の 観光業への参加と所有権の促進を重点に置いた観光地バ ヌアツとしての競争力を向上し、下記の方法により、開発の 収益を拡大し、国内のどこでも同等かつ持続性のあるサー ビスを受けられるようにする。 a) 革新的商品開発、マーケティング、国中の島々へのアク セスのために改善されたインフラ整備 b) ビジネス環境を整え、全国的に同様かつ持続的な観光業 に対する、地域および国外の投資家の注目を促進 c) 宿泊および関連業種の質的レベルを構築、維持するた めに、認定および格付けを立ち上げ、人材の育成と研修を促 進 d) より多くの業者や改善された法律、政策、組織上の枠組 みを通して、バヌアツ観光に対する市民の貢献や参加によ り、全国で公平な収益の分配かつ機会、観光サービスや開 発事業へのアクセスを促進 e) 政府、民間、市民を結ぶパートナーシップを開拓	・講義や実地での実習で得られた経験を活かし、エコツーリズム分野で の商品開発を改善したい。このことにより、持続可能な観光管理を可能に する新しい自然と文化ベースの製品を取り入れて、現在のバヌアツでの商 品基盤を改良する。この目標は、観光局の業務目標とも合致している。 特に関心があるのは、 ・文化的、歴史的観光地およびエコツアープログラム、バヌアツがいかにそ の歴史や文化的な背景を基盤とした同様のプログラムを編成し、メラネシ ア系バヌアツ人に対して参加を促すことができるか ・自然公園のエコツアーがバヌアツでは大変不足しており、各国のケース スタディについて聞くこと ・また、カヌーや湖岸での漁師たちの活動、または伝統文化とエコツアーに ついて知ること、自国での商品開発に活かし、現在のバヌアツの商品の 多様化をすることについてのよりよい指導ができる。
7	① DINH, Hong Nhung Thi ② D-11-02966 ③ 22 ④ 女 ⑤ ベトナム	① 観光開発研究所(ITDR) 研修・国際企業部 門 研究員 ② 10ヶ月 ③ ベトナム商業大学・経営学専攻 学士・10年 卒 ④ BBBC ⑤ (記入なし)	① ・国内外の個人や組織との協力 ・研修プログラムを計画すること。 ② 観光開発研究所(ITDR)は、文化スポーツ観光省のベトナム 観光総局に所属する。1993年に創設された観光開発研究 所は、観光経営に関する研究、概要戦略、計画、仕組み、 政策を実行し、政府の観光産業に対する管理の支援をす る。 ・観光サービスに関する科学研究を行い、観光開発に関 する科学的、技術的、およびコンサルタント業務 ・国内外の個人や組織と協力し、観光の科学研究 ・大学と共同で観光に関する大学院課程を組成し、大学院 コースを請け負い、観光業管理能力向上のための教育・養 成 ・観光科学についての情報を提供する。観光に焦点を絞っ た科学、技術の研究結果を広報するために、観光の科学お よび技術の研究書を編集発行	・より多くの知識を得るためにすばらしい機会である。エコツーリズムだけに 限らず日本や日本の文化についても学びたい。研修活動の計画も私の職 場の責務のひとつであるため、どのように研修プログラムを計画してまと めるかも習得したい。 ・特に、地域と関係者とのネットワークを構築する方法に関心がある。この 単元では、地域住民の湿原の保護と環境教育活動を経験することができる。

カリキュラム(案)

コース目的：自然環境及び自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材を育成する。

項目	科 目	講義	実習	視察	担当講師	プログラムの内容とねらい
単元目標1：自然・文化資源の保全と持続的利用にかかわる「エコツーリズム」の理念・施策について理解し、説明できる。						
エコツーリズムの理念	エコツーリズム総論	3.0			マーク・ブラジル	エコツーリズムの理念と概要について、世界各国の事例を参考に学ぶ
	文化史跡とエコツアープログラム	2.0		1.5	真板昭夫 (京都嵯峨芸術大学)	文化資源の保全と連携したエコツアーについて、京都等の事例を参考に学ぶ
	地域におけるエコツーリズムの取り組み (ラムサール条約との連携)	2.0			新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	釧路地域における事例紹介を通じ、エコツアーをラムサール条約の「湿地の賢明な利用」の一例として位置づけ、条約の理念・指針に基づくエコツアーのありかたについて学ぶ
エコツーリズムの施策	日本における国立公園の管理・運営	2.0			環境省自然環境局国立公園課	日本における国立公園の運営を紹介し、自然環境の保全、及びその利用のために必要な施策について学ぶ
	日本のエコツーリズム施策	2.0			環境省自然環境局ふれあい推進室	日本における法整備や普及啓発事業等を紹介し、中央政府によるエコツーリズムの推進のための施策について学ぶ
自然環境保全・自然資源管理	湿地保全とエコツアー (キラコタン岬)		5.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	釧路湿原天然記念物指定区域での湿地モニタリングを紹介し、自然公園・保護区におけるモニタリングの意義と手法について学ぶ
施設の整備と利用	遊歩道の設置と活用 (釧路湿原展望台・釧路湿原温組内)		3.5		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	湿原に面した丘陵地における遊歩道の事例を紹介し、遊歩道設置における植生への配慮や、多様な自然環境を紹介するためのレイアウトの工夫、エコツアーや環境教育での活用の方法について学ぶ
	国立公園の施設の活用		2.0		牛崎 方恵 (釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター)	国立公園内の自然情報施設を紹介し、展示手法や環境保全教育プログラムをはじめとする普及啓発活動について学ぶ
単元目標2：環境保全に配慮した「エコツーリズム」推進のためのプランについて議論できる。						
エコツーリズムモデルプログラム	自然公園のエコツアープログラム (シーカヤック・トレッキング)		5.0		然別湖ネイチャーセンター (〔株〕北海道ネイチャーセンター)	湖でのシーカヤック、ハイキングの事例を通じ、地域の自然を環境改変の少ない方法で活用するエコツアープログラムについて学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (ダッチオープン料理体験)		3.0		然別湖ネイチャーセンター (〔株〕北海道ネイチャーセンター)	地場産農作物を、野外調理体験などのプログラムとして提供するプログラムを通じ、地域産品の観光利用の手法について学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (リバーウォッチング)		2.0		然別湖ネイチャーセンター (〔株〕北海道ネイチャーセンター)	箱メガネによる河川観察や、野生生物をモチーフとしたクラフト製作など、地域の特徴的な自然を、だれでも体験可能な環境教育的観光プログラムの素材に活かす手法について学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (エアトリップ)		2.0		然別湖ネイチャーセンター (〔株〕北海道ネイチャーセンター)	空間を立体的に利用し、環境改変を最小限に抑えた観光施設の設営と、環境教育的プログラム「エアトリップ」の手法について学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (白雲山登山・ナキウサギ観察)		5.0		阿久澤小夜里 (ボレアルフォレスト)	野生生物の生息に配慮したツアー運営、ならびに登山初心者 の安全確保のための配慮や工夫について学ぶ
	ラムサール湿地におけるエコツアー (別寒別牛川カヌー)		2.0		曙カヌー工房	特別天然記念物タンチョウが繁殖する別寒辺牛湿原におけるカヌープログラムの事例について紹介し、希少野生生物の生息地でのエコツアーにおける、配慮とガイドラインの必要性について学ぶ
	里山におけるエコツアー			5.0	ケビン・ショート (東京情報大学)	千葉県の里山を紹介するエコツアーを事例に、人里の身近な自然を活用したツアープログラムや、地域住民への普及啓発の可能性について学ぶ
	地域の伝統文化とエコツアープログラム (東京・浅草)	1.5		1.5	新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員) (株)時代屋	東京・浅草で実施されている人力車体験プログラムを紹介し、伝統文化の保存と観光への活用、地域づくりとの連携について学ぶ
	環境保全・伝統文化とエコツアープログラム		3.0		辻井ミカ・辻井宗けい (嵯峨御流華道総司所)	地域の環境保全と連携した「華道」「茶道」を通じて、地域の自然と結びつきの強い伝統文化を紹介し、エコツアーにおける伝統文化のファンリテーションについて学ぶ
エコツーリズム手法・国際環境法との連携	地域におけるエコツーリズムの取り組み (塘路湖の漁業者運営によるカヌー、湧水観察)		2.5		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員) 土佐良範 (〔有〕レイクサイドとうろ、塘路湖漁協)	国立公園・ラムサール登録湿地における漁業者の副業としての観光カヌー運営と、地域産業の現場である水環境の保全・管理の自主的な取り組み事例について学び、地域産業を活用した住民主体のエコツアー運営と環境保全との関わりについて理解する
エコツーリズムモデルプログラム	フィールドを生かしたエコツアープログラム (釧路湿原細岡)		2.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	釧路湿原細岡地区の先史時代の遺跡や湧水などを紹介するエコツアープログラムを通じ、ツアーや環境教育の素材となる地域資源を見出すための視点やその具体的な活用方法について学ぶ
	地域における施設の活用 (細岡ビジターズラウンジ)		2.0		渡辺 寿 (釧路町細岡ビジターズラウンジ)	端材を活用したウッドレター製作の事例を紹介し、一般観光客も気軽に参加できるプログラムの開発や期待される環境教育的効果について学ぶ
	地域を生かしたエコツアープログラム (どさんこ乗馬によるハイキング)		5.0		鶴居どさんこ牧場 (〔株〕鶴居村振興公社)	北海道の在来馬を活用した環境に配慮したエコツアープログラムを紹介し、地域産業の観光・環境教育面での活用手法と地域づくりとの関わりについて学ぶ
	地域のエコツアーの取り組み (無人島ツアー)		3.0		NPO法人霧多布湿原トラスト	漁業者による無人島(ケンボッキ島)ツアーの事例を紹介し、地域特性と産業を活かしたエコツアープログラムの手法と自然環境への配慮について学ぶ
	地域と連携したエコツアー (番屋ツアー、木道ツアー)		5.0		浜中町霧多布湿原センター (NPO法人霧多布湿原トラスト)	霧多布湿原センターで実施されているエコツアープログラムを紹介し、地域の自然や産業、人材を生かしたツアーの運営と地域づくりとの関わりについて学ぶ
単元目標3：地域住民や関係者とのネットワーク構築のための手法を説明できる。						
ネットワーク構築	地域の環境保全とエコツアープログラム (京都大覚寺)		1.5		真板昭夫 (京都嵯峨芸術大学)	京都の寺院庭園の環境復元と利用のために組織されたネットワークの活動を紹介し、専門家と地域住民との連携について討論する
	地域の湿原保全の取り組み (霧多布湿原トラスト事務局)	2.0			NPO法人霧多布湿原トラスト	トラスト活動によるラムサール湿地・霧多布湿原の保全活動の事例について紹介し、地域住民を主体とする湿原保全活動について学ぶ
	地域の環境教育 (霧多布湿原センター)	1.0		1.0	浜中町霧多布湿原センター (NPO法人霧多布湿原トラスト)	霧多布湿原センターの事例をもとに、自然系施設における展示の工夫や環境教育プログラムの開発、自然情報のデータベース構築等、施設を拠点とした地域向けの普及啓発活動の手法について学ぶ
	学校教育との連携 (霧多布湿原センター)			3.0	浜中町霧多布湿原センター (NPO法人霧多布湿原トラスト)	霧多布湿原センターにおける校外学習としての環境教育プログラムの事例を紹介し、自然系普及啓発施設と学校との連携について学ぶ
	地域における環境教育の取り組み (厚岸水鳥観察館)	1.0		1.0	湊谷辰生 (厚岸水鳥観察館)	厚岸水鳥観察館を拠点とした、地域住民向けの野生生物・湿地保全に関する普及啓発の取り組みを紹介し、地域における自然系施設の役割について学ぶ
単元目標4：エコツーリズム導入に関する中間報告書の作成ができる。						
実習	文化史跡とエコツアープログラム		3.0	1.0	新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	京都の二条城周辺を題材に、文化史跡を活用したエコツアープログラム案の企画を試みる
作成指導	コースオリエンテーション	1.5			新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	厚岸水鳥観察館を拠点とした、地域住民向けの野生生物・湿地保全に関する普及啓発の取り組みを紹介し、地域における自然系施設の役割について学ぶ
発表会	インセプションレポート発表会		2.0		—	研修員各自の業務内容、抱える問題、研修に求める事など関係者が互いに理解する
討論	ワークショップ(エコツーリズムの運営)		2.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	研修で学んだ内容を、自国におけるエコツーリズムの運営においてどう活かすか、ワークショップを通じて検討する
討論	ファシリテーションミーティング		2.0		JICA帯広	研修で学んだことや、帰国後の活動のアイディア等について、研修員主導による討論を行う
作成指導	インテリウムレポート作成指導	4.0			新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	研修員によるアクションプラン作成の支援のため、プランの対象となる自国の抱える問題の整理やプランの実現性などについてコースリーダーが助言を与える
作業	インテリウムレポート作成		3.0		—	研修での経験や、コースリーダーの助言を元に、帰国後のアクションプランを作成する
発表会	インテリウムレポート発表会		2.0		—	本研修を活かした帰国後のアクションプランを通して理解度を測る

(小計) 22.0 67.5 14.0

総計 103.5

日程表(案)

月 日	曜日	午前/午後	プログラム	担 当	会 場	宿泊地
8月22日	月	来 日(帯広到着)				帯広
8月23日	火	終 日	ブリーフィング/JICAブリーフィング①		JICA帯広センター ブリーフィングルーム	帯広
8月24日	水	終 日	ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広センター ブリーフィングルーム	帯広
8月25日	木	終 日	ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広センター ブリーフィングルーム	帯広
8月26日	金	午 前	JICAブリーフィング②	JICA	JICA帯広センター ブリーフィングルーム	帯広
		午 後	ブライトミーティング	KSA	JICA帯広センター オリエンテーションルーム	
		夜間	日本語講習		JICA帯広センター セミナー1	
8月27日	土	終 日	日本語講習		JICA帯広センター セミナー1	帯広
8月28日	日	休 日				帯広
8月29日	月	午 前	プログラム・カリキュラムミーティング	JICA/KIWC	JICA帯広センター ブリーフィングルーム	帯広
		午 後	インセプションレポート発表会	JICA/KIWC		
8月30日	火	終 日	移動:帯広→然別 自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔	然別
8月31日	水	終 日	自然公園のエコツアープログラム	ボレアルフォレスト(阿久澤)	然別湖畔	然別
9月1日	木	終 日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔	然別
9月2日	金	午 前	移動:然別→帯広			帯広
		午 後	地域におけるエコツーリズムの取り組み	新庄久志 (KIWC)	JICA帯広センター セミナー3	
9月3日	土	休 日				帯広
9月4日	日	休 日				帯広
9月5日	月	午 前	移動:帯広→釧路			釧路
		午 後	釧路市長表敬	KIWC	釧路市役所	
9月6日	火	午 前	地域におけるエコツーリズムの取り組み	土佐良範(レイクサイドとうろ) 新庄久志 (KIWC)	塘路湖畔	釧路
		午 後	国立公園の施設の活用	塘路湖エコミュージアムセンター	塘路湖エコミュージアムセンター	
		午 前	フィールドを生かしたエコツアープログラム	新庄久志 (KIWC)	釧路湿原・細岡	
9月7日	水	午 前	フィールドを生かしたエコツアープログラム	新庄久志 (KIWC)	釧路湿原・細岡	釧路
		午 後	地域における施設の活用	渡辺 寿(細岡ビジャーズラウンジ)	細岡ビジャーズラウンジ	
9月8日	木	終 日	地域を活かしたエコツアープログラム	鶴居どさんこ牧場	釧路湿原	釧路
9月9日	金	終 日	遊歩道の設置と活用	新庄久志 (KIWC)	釧路市湿原展望台/温根内遊歩道	釧路
9月10日	土	休 日				釧路
9月11日	日	休 日				釧路
9月12日	月	午 前	移動:釧路→厚岸 ラムサール湿地におけるエコツアー	曙カヌー工房	別寒辺牛川・厚岸湖	厚岸
9月13日	火	午 前	移動:厚岸→浜中 地域の湿地保全の取り組み		ケンボッキ島	厚岸
		午 後	地域のエコツアーの取り組み 移動:浜中→厚岸	霧多布湿原トラスト	霧多布湿原トラスト	
		午 前	移動:厚岸→浜中 地域と連携したエコツアー	霧多布湿原センター	霧多布湿原センター	
9月14日	水	午 後	地域と連携したエコツアー 移動:浜中→厚岸	霧多布湿原センター	霧多布湿原センター	厚岸

9月15日	木	午 前	移動:厚岸→浜中 学校教育との連携	霧多布湿原センター	霧多布湿原センター	厚岸
		午 後	地域の環境教育 移動:浜中→厚岸			
9月16日	金	午 前	地域における環境教育の取り組み	湍谷展生(厚岸水鳥観察館)	厚岸水鳥観察館	釧路
		午 後	移動:厚岸→釧路			
9月17日	土	午 後	ホームビジット			釧路
		夕 方	交流会	KIWC	釧路市生涯学習センター	
9月18日	日	休 日				釧路
9月19日	月祝	終 日	湿地保全とエコツアー	新庄久志(KIWC)	釧路湿原キラコタン岬	釧路
9月20日	火	午 前	ワークショップ(エコツーリズムの運営)	新庄久志(KIWC)		釧路
		午 後	インテリウムレポート作成指導	新庄久志(KIWC)	釧路市観光国際交流センター	
9月21日	水	移動:	釧路→東京			東京
9月22日	木	午 前	日本における国立公園の管理・運営	環境省自然環境局国立公園課	JICA東京センター	東京
		午 後	日本におけるエコツーリズム施策	環境省自然環境局ふれあい推進		東京
9月23日	金祝	終 日	里山におけるエコツアー	ケビン・ショート(東京情報大学)	千葉・印西	東京
9月24日	土	午 前	地域の伝統文化とエコツアープログラム	新庄久志(KIWC)	東京・浅草(時代屋)	東京
9月25日	日	移動:	東京→京都			茨木
9月26日	月	休 日				茨木
9月27日	火	終 日	文化史跡とエコツアープログラム	真板和夫(嵯峨芸術大学)	京都・大覚寺	茨木
9月28日	水	終 日	文化史跡とエコツアープログラム	研修員実習・新庄久志(KIWC)	京都・二条城	茨木
9月29日	木	終 日	地域の環境保全とエコツアープログラム	辻井ミカ(嵯峨御流華道)	京都・嵯峨御流華道総司所	茨木
				辻井宗けい(表千家茶道)		
9月30日	金	移動:	京都→東京			東京
10月1日	土	休 日	(インテリウムレポート作成)			東京
10月2日	日	午 前	エコツーリズム総論	マーク・ブラジル	JICA東京センター	東京
		午 後	インテリウムレポート作成	新庄久志(KIWC)		
10月3日	月	午 前	ファシリテーションミーティング	JICA帯広	JICA東京センター	東京
		午 後	インテリウムレポート作成	新庄久志(KIWC)		
10月4日	火	終 日	レポート発表会 評価会 閉講式		JICA東京センター	東京
10月5日	水	帰 国				

年 度 別 受 入 実 績 表

1. 応募／選定(受入)人数

	22年度	23年度	累計
応 募 数	12名	13名	25名
受 入 数	8名	7名	15名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	22年度	23年度	累計
(アジア全域)			
スリランカ	○○	○	3名
タイ	●	○	2名
ベトナム	●	●	2名
(中南米地域)			
アルゼンチン	●	●	2名
(大洋州地域)			
バヌアツ		●	1名
(アフリカ地域)			
ケニア	○○	●	3名
ウガンダ	○	○	2名
計	6ヶ国	7ヶ国	7ヶ国
	8名	7名	15名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp